
二人の夜叉

幻香

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

二人の夜叉

【Nコード】

N4828N

【作者名】

幻香

【あらすじ】

神楽が偶然出会った男は銀さんと知り合いで…！？
閉ざされた過去、死んだはずの男、謎が今解き明かされる！？

始まり

綺麗だと思った

最後に見えた空は泣きたくなるくらい美しくて

やっと気付くこと出来たのに

世界が薄くなっていく

そして

俺は、死んだ――

――数年後――

江戸は歌舞伎町にある『万事屋銀ちゃん』の中で一人の男、坂田銀時が顔にジャンプを乗せソファで寝ていた。

そこに

「おはようございまーす。」

と従業員である志村新八が入ってきた。

「銀さん！いつまで寝ているんですか！」

「…うるせーなメガネ。朝からぎゃーぎゃー騒ぐんじゃねえよコノヤロー」

「新八って呼べよ！っていうかもう11時ですよ。まっとうな人間はもう活動してます。……ってあれ？そういえば神楽ちゃんは？」

「あ？知らねーよ。すこんぶでも買いにいったんじゃねーの？」

この時、すでに運命の歯車はすでに回っていた。

神楽は“俺”に会っていたのだった。

始まり（後書き）

小説書くなんて初めてなんで緊張しました（ - - ;

下手な所が多いと思いますが出来れば感想お願いします!!

出会い

神楽は銀時の予想通りすこんぶを買っていた。

「定春ー帰るアルヨー」

しかし定春は路地裏に顔をむけたまま動かない。

「定春？メス犬でも見つけたアルカ？」

「ワン！」

定春は違うと言うように吠え、振り返り神楽にも定春が見ていたモノが見えた。

それは人だった。

全体的に薄汚れていて髪は短くも長くもない中途半端な長さで黒のシャツ、ジーパン更にその上に白い羽織りを着ていた。

（神楽に気付いたのか顔を上げ）

「…そのガキィ…なんか食い物ねえか…？腹減って死にそうなんだよ…」

「嫌アル。働いて自分で食い物手にいれるヨ」

「冷たてえな…そのすこんぶ一つだけでいいからくれよ」

「しつこいネマダオ」

「マツマダオ…！？俺はまるで駄目な男じゃ…ってぶげえええ！！」

男は話している途中で定春に頭から噛まれ悲鳴をあげそのまま気絶してしまった。

ガラガラッ

「ただいまヨー」

「おかえり神楽ちゃ…」

帰ってきた神楽を笑顔で迎えた新八だが定春を見て硬直した。

「？どうしたアルカ？」

「か…神楽ちゃん…定春何持っているの…？」

定春はさっきの男を噛み付いたままだった。

「さっき拾ったネ」

「ワン！」

出会い（後書き）

なんか書くの疲れました…書くって大変です。

再会（前書き）

小説書くのホント久しぶりです…

再会

新八と神楽が口喧嘩をしていると

男

「…ん…なんだようるせーなあ…発情期ですかコノヤロー…」

神

「あっ起きたネ」

男

「つーかどこどこ？」

新

「ここは万事屋ですよ。…って言うかあの…頭大丈夫ですか？」

男

「頭ア？」

頭を手で触ってみた。すると濡れた感覚がした。恐る恐るてを見てみるとそこにはちがべつとりついていた。

男

「…」

新・神

「…」

男

「…ギヤアアアアアア！ヘルス！ヘルスミー！！」

神

「ヘルプミールヨ」

新

「ちよっ！！ちよっと落ちついてください！！」

男

「うわあああ！！犬に噛まれて死ぬなんて惨め過ぎる！！」

新

「それはごもつともですけどちょっと落ちついてください!」

三人で言い争っていると言時が玄関にやってきて

銀

「うるせーなあ!お前らさっきから何やって……!」

神

「銀ちゃん?」

銀時の言葉が途中で切れ新八と神楽が不思議に思って顔を見て見ると

銀

「龍…か?」

龍

「ぎつ銀時!!」

万事屋に暫く沈黙が続いた…

自己紹介は早めにやろう(前書き)

今回は少し多めに書いたつもりです。今後もっとたくさん書けるようにしたいと思います!!

自己紹介は早めにやろう

とりあえず落ち着いて話そうと言う新八の提案で銀時らは居間にいた。

新八

「…で銀さんこの人と知り合いだったんですか？」

銀時

「ああ。こいつは海原 龍って言ってな。龍は幼なじみだ…つか兄弟？」

神楽

「マジでか銀ちゃん！！銀ちゃん弟いたアルカ！？」

新八

「僕もそんな話初めて聞きましたよ！！」

龍

「いやあ…兄弟っても血は繋がってねえしな…にしても…銀時イ…一つ…頼みたい…ことがある…。」

龍は言葉を途切れ途切れにし苦しそうに顔を歪めている。

銀時

「なんだ？」

銀時はその表情をみてただごとではないと感じたのか真面目な顔になった。

龍

「飯…を…く…れ…!!」
そしてそのまま床に倒れた。

銀時・新八・神楽

「「「はあ?」」」

万事屋内に虚しい腹の音が響いた。

龍

「いやあゝあっはっはっはどうもごちそうさまでした。」

あのあと銀時達はどうがなくて一階にいる『スナックお登勢』
を経営しこの家の家主であるお登勢に頼み食事を提供してもらって
いた。

最初は嫌そうな顔をしていたお登勢だが銀時に背負われてやって来
た龍を見て黙って用意してくれた。

お登勢

「まったくごちそうさまじゃないよ!!こんなに食べて…ウチは定
食屋じゃないんだよ!!」

龍

「えっ！！そうなの？駄目じゃないか銀時とその愉快的仲間たちゝ
こんなに死にかけのババアから食料たかつちやゝ。」

新八

「この事態招いたのあんたでしょうが！！」

お登勢

「誰が死にかけのババアだあアアア！！！！」

そのままお登勢は勢いよく龍にジャンプキックをおみまいした。

龍

「いつでええええええ！！！！つーかさっきから馴れ馴れしくして
！！お前ら誰だよ！！？」

新八

「今頃かいイイイイ！！？」

神楽

「落ち着くネ新八。まずは私からネ。龍ちゃん、私は神楽アル！！」

龍

「ふーん…神楽か…よろしくな神楽！！」

新八

「僕は志村新八と言います。」

龍

「…（ぼそっ）駄メガネね…。」

新八

「いやなんで僕は駄メガネなんですか！？新八っていつてるでしょ！！」

龍

「はい次々。」

新八

「いや僕のこととは無視ですか！？ねえ！！ちょっとオオオオオオ！！」

新八の虚しい叫びが響きつつ自己紹介は終了したのだった…。

自己紹介は早めにやろう(後書き)

感想等よろしくお願いします♪

設定（前書き）

キャラ設定です。説明下手ですいません。

設定

海原 龍（かいばら りゅう）

誕生日↓不明

年齢↓20歳くらい

身長↓165cm

体重↓55kg

容姿

銀髪で一見短髪に見えるが実は長髪で短い毛は天然パーマみたいにはねていて長い部分は下の方で一本に結ばれている。

目は左目は青く、右目は赤くなっているが右目は普段は眼帯で隠している。

実はとても綺麗な顔立ちをしているが目付きがやる気の欠片もない感じで覇気がないようなので表情はたるんでいて全然モテない。

ぶっちゃけ天人とのハーフ。

服装

普段はジーンズに黒い襟の立ったシャツの上に白い羽織りを羽織って常に腰に刀を帯刀している。季節や場所によって違う服を着るが羽織りだけは着用し続ける。

身長を気にしているのか黒のブーツを履いている。

全体的に黒が多い。

性格

目付き同様やる気は基本的に等しい。

ただし遊び関連は全力で頑張る。

自称やる時はやるらしい…。

幼少の頃銀時らと過ごしていたため銀時に似通った所が多い。
チビであることを気にしていて指摘されると怒る。

経歴

5歳くらいの頃天人によって地球に捨てられ死にかけていた所松陽らに発見され銀時の弟として育つ。

その後銀時と一緒に戦争に参加。

戦闘中に死亡。

かんたい
神代として現代に生き返る。

備考

神代とは簡単に言う神のことであり、全世界を統治する『神主』かんしゅと言う最高位の神が無惨な死を遂げた者の中から選び、地上で神として再び生きることを義務付けられた者を神代と言う。

神代になった者は神の力の源である通称『神の欠片』が授けられ、だいたい欠片が2つで1つは体内にもう1つはそれぞれにあった形になる。

ちなみに龍の神の欠片は刀『青羅』に宿っている。

銀時は龍が死んだ時目の前にいたのだが龍がその時の記憶を封印したので覚えていない。

龍の瞳には元から不思議な能力があり命と引き換えに発動する。

基本何でもできる。

設定（後書き）

読んでくれてありがとうございます♪

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4828n/>

二人の夜叉

2011年10月7日22時21分発行